

第60回～第62回流域委員会における審議結果の整理表（案）

論点項目	審議結果		
	確認事項	以降の論点で議論する事項	修文対応等
②整備目標に関する事			
7 整備目標	⑥整備目標流量3,510m ³ /sに関して異議があるという議論ではないが、右記のような議論があった。	⑥減災につながる土地利用のあり方については、減災対策の論点で議論する。	⑥流出解析に関連して、流域の土地開発動向と政策誘導に関する加筆が必要ではないか。
8 整備計画の対象期間	⑥整備計画の対象期間20年に異議があるという議論ではないが、右記のような議論があった。	—	⑥整備計画の対象期間の決定に関して、20年間で何をやるのか、どこまでできるのか等について、わかりやすい説明の加筆が必要ではないか。
③流量配分等に関する事			
9 下流部築堤区間	⑥①河道分担流量3,200m ³ /sは特に異論はないが、右記のような議論があった。	⑥粗度係数および流下能力の算定に必要な流量観測の充実に関しては、モニタリングの論点の際に修文の可能性も含めて議論する。	⑥河床掘削においては、環境との整合性に関する加筆が必要ではないか。
	⑥①下流部築堤区間に流下能力が低くて危険な区間があること認識は共有しているが、右記のような議論があった。	—	⑥①下流部築堤区間の河道改修を「喫緊の課題」とした理由については、その表現方法についての議論が必要ではないか。
	⑥①河道の分担量を増やしてネック部を解消するという流れはよく理解できるが、右記のような議論があった。	⑥河床掘削の工事方法に係る潮止堰の試験転倒や床止工の撤去の方法については、委員からの具体的な意見書を踏まえて今後議論する。 ⑥②潮止堰の試験転倒ができない理由について、後日、委員の意見書を踏まえた県からの回答を受けて議論する。	—
	⑥①潮止堰や床止工の撤去という方針に全面的に異議を唱えるものはなかったが、右記のような議論があった。	⑥①潮止堰や床止工の撤去に際しては幾つかの問題点や配慮すべき点がある。	—
		⑥②潮止堰等に限らず既存ダム活用の活用においても、将来の環境条件の変化（地球温暖化）をどう評価し、どう取り入れるかについて、今後、議論する。	
10 下流部掘込区間	⑥①下流部掘込区間の計画について特に意見はない。	—	—
11 中上流部及び支川	—	⑥①工事着手前に新たな貴重種情報を入力した場合の対応は、環境や推進体制のところで議論する。	—
12 堤防強化	⑥①堤防強化については、基本的には原案に記載された方向で了とするが、右記のような議論があった。	⑥①都市景観、緑地景観と治水とのトレードオフの関係について今後整理していく。	—
13 既存ダム活用（合意形成の課題）	—	⑥①今期計画に既存ダム活用を盛り込むべきかどうかについては、個別のダムの議論が必要である。	—
	⑥②今期計画の中で既存ダムの活用の数値を置きかえることができるかどうかという、大変難しい問題だということは認識しているが、右記のような議論があった。	⑥②既存ダム活用は、継続検討だから将来課題としてしまうのではなく、20年間の中での道筋を明確にしておく必要がある。そうした議論をすることで、計画の中での表現も変わってくる。	

注) ⑥は第60回流域委員会、①は第61回流域委員会、②は第62回流域委員会での審議結果